



北國曲集卷之二

是天

再昌院



城とや施織鬼の幡乃一流也
 情鈴れと海重とて安一牛乃角 推之
 何とくく二布一丁くち掃五梨 羽重
 宿智子猫も流浪や秋能るる 正秀
 敵子旅味とるよとく流や秋の雲 氷蟲
 乃とくくあつとくくや女而也 朝尺
 神と慈佛と慈乃とふれ月 林月

今織北系がー^一庭えや菊作^二調千
 樽作^一海日^二京^三兼字の編^四れ^五竹宇
 生^一暫^二の^三油^四じ^五や^六さ^七ね^八割^九為^十風
 腮^一血^二分^三く^四嘯^五く^六松^七梅^八の^九菊^十三和
 け^一ぬ^二り^三海^四照^五の^六世^七く^八き^九の^十月^{十一}梅風
 空^一立^二あ^三流^四も^五と^六海^七や^八蟻^九蟀^十柳巴
 去^一え^二は^三流^四聚^五た^六虫^七や^八星^九ち^十の^{十一}里^{十二}可中
 漲^一の^二音^三や^四心^五海^六れ^七ら^八く^九と^十泉^{十一}和泉
 滿^一年^二に^三川^四と^五越^六く^七や^八ぬ^九ら^十と^{十一}和月

カ^一と^二塔^三子^四壁^五吐^六く^七や^八ま^九ふ^十何^{十一}り^{十二}三父
 張^一如^二也^三と^四く^五心^六海^七行^八は^九白^十一^{十一}葉^{十二}放^{十三}牛^{十四}
 傘^一片^二あ^三ま^四も^五あ^六ま^七は^八た^九た^十た^{十一}た^{十二}湖^{十三}舟^{十四}
 片^一ら^二り^三水^四漏^五と^六是^七有^八一^九木^十の^{十一}中^{十二}龜^{十三}洞^{十四}
 つ^一る^二は^三ま^四乃^五ゆ^六遠^七揚^八和^九佐^十後^{十一}取^{十二}後^{十三}弓^{十四}丁^{十五}
 志^一加^二え^三古^四の^五志^六や^七徳^八の^九斬^十友^{十一}尾^{十二}也^{十三}曉^{十四}井^{十五}
 始^一中^二れ^三こ^四と^五流^六橋^七と^八懸^九梯^十う^{十一}れ^{十二}固^{十三}有^{十四}
 ね^一く^二ら^三と^四深^五中^六と^七て^八卯^九と^十拖^{十一}の^{十二}糸^{十三}瓢^{十四}水^{十五}
 名^一月^二ぬ^三塔^四紙^五は^六書^七く^八や^九は^十日^{十一}中^{十二}夏^{十三}鳥^{十四}

月乃志と申すは毎の福此也 吟水

福喜子中の小籠や如くは玉丈

篠葱りちねやまか乃持おま 芦澤

我らうと福よくも子あま瓜 旭山

之味線子如とうくはねの声 亦丈

骨折と風り後いあ明子う那 真方

船路能松糠倉より福乃とれ 三知

菱徑の天と子申ふ桔梗う糸 且栖

うい草とといはるはるや長執 遊竹

三益能福子血とさう一節は花 心園

佳けうにまもるこ因果也程おか子 松波

舌口答乃人転やうふと暮る糸 紫貞

乙千里のそふ能おしと月 滴毒

拵海りくも糸義の菊の也 木川

ふ別乃うとつしとねれあ 芙蓉

福喜れ燈一拵や別西瓜 栢溪

生魚能水の本らと海幽 黙鶴

糸無りや本が公の燈て夕り成 圭堂

そよゆいよからむ髪や鶴の毛 本言流小川 曾天

草花も猫とむくもそよ吹とくや 日 朝栢

物水やあつと一筋何乃何 大坂 三惟

実捨りやあつと一筋何乃何 大井 葉三

始書しの隠しん坊や忌乃書 信長池田 十之

川にやしの照に照し連に二つ 日 梅谷

縄をひり乃くもえれ一葉成 本言流小井 吟水

白雲ふとむ道月早一夜の月 流言爪 朱人

法後をいそむ屋をそよめ踊る 本言流小田 野紅

織物乃あわく音やさうくと 日不女 一五ん

舟と朱もあせり此清ら本槿成 十介

清の子にあつと一筋何乃何 岐峯

虫鳴く後探り何案山 振予

水とやうと本乃僕やあつと夕 宇鹿

名月の池へあつと一筋何乃何 奥平 沾梅

花くさあつと一筋何乃何 信長 仙風

一とおりあつと一筋何乃何 信長 和水

了成りあつと一筋何乃何 日 卷之

暁る花由依りともやねの月 ナユヤ 消溪

このあつと動くと栲やねり月 日 嶋舟

髪如一場井乃水膚とあはら 初汲

一をな一ゆらよふ火やりの歌 春翠

ねとあつと目北はくや月乃雲 高吉

悪くして世のち桂北乾法師 立圃

まき首留つらんゆらねを 洞口

葉難はるけりゆらふと 侍御

あつとあつと勝ももゆらやねと佛 洞曉

寺のあつとあつとあつと揚雄 風白

之日月の扇り他務や 竹林

葦葉とあつとあつとあつと 雲歩

ゆらねるあつとあつとあつと 圓入

梅の串のあつとあつとあつと 以上

あつとあつとあつとあつと 詞林

梅のあつとあつとあつとあつと 知夕

あつとあつとあつとあつと 梅陰

あつとあつとあつとあつと 芳舟

北二 四

六

六

今月有詠の集子乃新世也 奥の巻 沾薄

そのくは家治きりけの後の月 日 素文

襟の籠入の夕日乃草菅成 ナニヤ 橋崔

ふぐしはくあはれなるあめの麻 千里

落れ日の滝や多深なる水の色 ナニヤ 風朴

稲妻と雲乃くお世とあかりたり 朴龍

あま乃くあはれなるあまの影 誰也

そのくはく鳥帽子の泥や約の色 シノ下 洞玉

玉若菜の盆やくは世の成り後の音 推掛

澤菴乃舌子笑ふは夢徳成 水明

沖勢をこれせと西の首五十首 シノ中 吟濤

菊海や三と九盆乃口抄子 日 合之

鳥帽子をくはくはくはくはくはく 日 鷗波

挨拶は何くはくはくはくはく 日 露碩

以水の雲はくはくはくはく 近江 去け

嚏乃鼻くはくはくはくはく 珍木

横席はくはくはくはく 涓溪

早稲子繩張く牛馬は案山成 此由

本らるる如く陸小水也水乃由 古鏡
 わさうかの如く也タコヤ 十の如く集 松遊
 山細子洗絶路乃西凡の如 日 峯雪
 やおらるる山望の月もや夕紅 奥の山望 右巴
 福書水只一とらるる也 三ノ麻上 海毛
 片らるる乃もや 日千且林 百とさ菊の如 洗月
 日とらるる如く 本らるる福の 千流
 急月の望らるる也 奥の山望 中母乃也 芳洋
 豆引北一棒く 本らるる福の 如く集らるるれ 瓦山

福書の紙里元は也からん心 不又
 去らるる佛 本らるる福の 如く集らるる 風野
 極りのとわらるる也 本らるる福の 乃集らるる 正奥
 福垣や百乃集 本らるる福の 北の如く集らるる 冬雀
 女らるる也 本らるる福の 乃集らるる 小千
 昔集極り 本らるる福の 乃集らるる 一葉瓜 風姿
 伊まは 本らるる福の 乃集らるる 乃集らるる 風鳥
 福書あり 本らるる福の 乃集らるる 乃集らるる 東仙
 本袖と 本らるる福の 乃集らるる 乃集らるる 還珠

七夕北海より見さくしき目鏡 莞尔

門破さしめくしき唐辛 ナニヤ 雲跡

後さしき鷹とくしき菊のふり 風式 フウシキ

草葺乃の義つとくしき海口の如 信別松か 太河 ミナト

ふはぬんを筆とくしきぬ縁の自 日 蟻道

く留くしき百る編やあま川 楚山

首さしきとぬくやあま川 素人 ソウジン

名月や小島の海士北肌くしき ナニヤ 右鳥

根くちしきを風とくしき投りくしき イセ桑名 正統

盃も鼓とくしき袖もみ地あつとく 信別わが 南澤

仙草の立ちゆくしき水鏡法師 右柳 サヤ

心根北別澤とくしき唐かじり 素行

茶乃香たおけくしきや水鏡 信別松か 巴仙

え通くしきの神水見くしき水鏡法師 日鏡川 五梅

水風やくしき無くしき配流り如 イカ七人 青歌

そ居雲やとくしきくしきくしき なまの橋 櫻川

烟くしき水鏡くしきくしき なまの橋 湖唇

鳴鶴くしきくしきくしきくしき 日 秀陽

深乃ぬれぬぼさうゆや草の露 三ノミ 素功

苔の葉は蟹よかぬやうを若 イカ上 峯尺

水さしゆや指の澄りゆゆを若 イカ上 其水

蛸蛸をさ一本橋よひくえを若 イカ上 和雪

眺くくと帰れ縁もや夢の都 三林 三林 尾

女やむ例の縁舞やかかや 大坂 野坡

日こぬゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 何十 何十

竹の音は神よも鳴やゆゆゆ イセ葉 杉長

よ云めいあゆりぬ蝶はむせ 林子 林子

月乃られ下りてふ居の屋をも 汪冲 汪冲

雲の集越や海ふ女中は影ゆ 午潮 午潮

月をふくと都ゆゆゆゆゆ イセ葉 鯉白

ら藤ぐりゆゆゆゆゆゆゆ 蛙水 蛙水

十古夜の雲より秘事乃捷なれ イセ上 加吟 三ツ

ぼり月尉後の面股は事繁 吞水 吞水

赤味ゆゆゆゆゆゆゆゆ 桃川 桃川

一唱のゆゆりこあゆゆ 凍左 凍左

ハるゆゆゆゆ片時乃る 椿又 椿又

小男無成やうう一二三と云ふ柳巴

心はなもろくと怨んで去りて来りて吾人

心くはる事なきはる中や初め切ふ本言補注 桃瀬

猪熊本乃根りわがは聖の成日 東吟

薄氷と踏んてききもれ熱拂ふれ尾紅犬山 雲静

一掃くやききし星の思ふ事日 一静

風も清とく昔舞乃出るまこと三三子安 三巴

かゝ風のりし目初め舞拂ふ 白雲

露乃困子体と寝あくるも星乃宿 相風ツラ

菖白一とあまき雲を北高仁糖ヒメミ山 車水

冬風やうらまると比丘危濤と架カモ 藤乃

あゝ菊と神代乃本世の白ひ波伊呂 清空

栲樹り梅也り海一水乃蝶 燕説

我う初めあまきや木等うらむ梅娘地大田 化光

寄姑あり鳴く鳥や總ひえ 居士

狼の足跡しり 愛珠河花 露竹

稲妻よんがれくあふ栲樹れナニヤ 梅思

満月や栲樹庇よんがれ月 如農

とくくやと早十きまぶる夜の月 はつ 木厄

昔今此古ゆも朽はのらら月 日 舟木

葦岸乃福とるあざりや ヒツキ 権賣 宇林

はるゆいと只たう是れ醒うふ ナユヤ 梅風

白くあはれ滝といふやふの月 はつ 一滴志

精してのねとけまなむせう はつ 一管

念月や船り海風りゆみ富路 日 竹葉

非くくふふばば 日 松翠

いふふふ 日 等龜

持苗とく拾ふあふの ナユヤ 白陽

芋のあふ 日 宵月

冬之尻や 日 美蛙

妻と乃 はつ 露瓢

欄干に千 日 万山

於持持り 日 嘯吟

稲妻や 日 池天

夜の月照 日 榎堂

狐狗 日 卷耳

見と仰やも此の心も魂系 松毳
 生綿衣の氏子也口ては湯節 市藤
 福書乃長り破れこ子心 鶴心
 未生紀と云く嵐色も此の意 佐公 應水
 今之と云くも安し本権 吟山
 鳩の心も云くも意も此の心 起外
 古に乃綿衣も菊北十日の妙 一秀
 心の中も云くも此の意も乃あつる 露淳子

上天

風羅翁

今りては人々も年志も此の時
 口切つて隣りも此の時 根原汁 吟水
 清命海也世に長才者此の身 藤乃 伊予
 夜の心もあつる此の時 細代守 巴雀
 構乃火也構り構中此の時 伊山田 團室
 大は此の眼も此の時 和雪
 借金の年乃此の時 桃川

冬枯枝杪や浮勒の何くくどめ 竹為
 墨法師やふ縁つんえとくたま立 阿文
 冬をなや釋丸也いふれしり 栢風
 清ゆみ精られくやとと清る 可中
 冬を声のほくいかにや鬼聲外 風埃
 一冬くくああう物じやまこれ免 不又
 冬水と知くぬゆゆ紙子堂 朝尺
 かくくまこれあま暗者や雪乃富士 野柳
 熟らくいの也に居ふ時ぬう那 奥の細川 晋流

冬のあかり雪や海もて里津系 氷明
 寒き菊や風とお多りかあ力 鷗白
 確乃音りぬまし雪すれを アキノハ 虎洞
 起くまふの息んふとさうれ 本名柳川 里藤
 まふ人けう堂流流に生海嵐 信濃 可明
 大脚う雪丸あうくあて火燈ふ 推扣
 胎内れくくくやけ年ぬられ 珍木
 毛蒲團や上く息人乃ぬく息多 推之
 荒浪水遊り遊り是川雪舞 信濃 修琴

はまはくもせはるんぬりたふまは 居士

まなせがかりくことまら 傘の室 本名松次川 箕浦

とあまへ報く川の中は時あいの程 この下麻生 玉泉

綿衣を名あゝ兎の志似りみる毫 風白

そら雪作やしらるるく未ら後の波 瓢水

矢者なりきしらや一とんあうり梅 誰也

一法をる居り結句やまき念佛 千里

大雪れ性根やぬあてみと出る 昔えよ 巴羽

下結の結乃お宿しやう結の宿 日 回山

八百乃塵を吹くく神通え 氷畏

糖日る以鮎あしらひ月れまこ成 このころ例 鳥道

ここの店お建あしはや梅とむ 氷支

罪づぶらるるくはああまを牡丹 此由

十月とすははあまのあまのれ またえす 暮三

大雪より口と延りやあひのこ イカ上せ 防風

心と梅りあられまあまの松葉成 イカ女 松風

遠らりらららとんせとあ雪乃雪 この大十 葉三

大雪の結はるんぬりや一年の流 尾がの二ツ 栄子

耳きかたの唇一ツリ如雪佛 初汲

風とくふ依乃尻まくら針子イセ柳樹 蛙井

ゆとら子腕と連煙の字とイセ 除菌

池流り本目はまてや夕子ナツヤ 春翠

ふとまをたとせよ世中ととせよナツヤ 流枕

脩乃江子佛せゆえや非接え 魚日

標掃一に陳皮の袋ふりまイセ 唯子

掛とやせぬや治ふ乃おかイセ 露竹

と子の世とくくたかくくおれ雪 氷蟹

あごまの如き海を切し紙を張 俵子

かき一ゆきまもや川年忘れ 柳巴

長紀里妹悲しくも子とらゆ 嶋舟

井と扱とたの巾衣の志イセ 十竹

とと地の子を河川をや雪布袋 之楓

る去膝よりくや十夜北葉大根 燕説

まふ舟や像鬼とく敷の乾法師イセ 加管

流しとや笠着くこ人大根イセ 子元

花とまお新也乃袖やぬらるる 心園

業イセノ海あはれイセノ海さくらイセノ海しほイセノ海しほイセノ海の雪 松波
 生垣ナユヤの雪ナユヤよナユヤとナユヤ家ナユヤのナユヤ 箇口
 栴イセノ海濃イセノ海れイセノ海ふイセノ海あイセノ海しイセノ海めイセノ海らイセノ海りイセノ海のイセノ海紙イセノ海子イセノ海 玉又
 風イセノ海りイセノ海偏イセノ海こイセノ海のイセノ海子イセノ海偏イセノ海きイセノ海のイセノ海也イセノ海 旭山
 二イセノ海まイセノ海乃イセノ海雪イセノ海みイセノ海まイセノ海足イセノ海のイセノ海也イセノ海 遊竹
 小イセノ海あイセノ海らイセノ海のイセノ海也イセノ海 絶イセノ海てイセノ海久イセノ海しイセノ海きイセノ海 笑イセノ海のイセノ海翁イセノ海
 去イセノ海とイセノ海とイセノ海とイセノ海のイセノ海後イセノ海のイセノ海子イセノ海 梅イセノ海のイセノ海也イセノ海 可立
 行イセノ海燈イセノ海のイセノ海例イセノ海のイセノ海也イセノ海 随イセノ海岐イセノ海
 相イセノ海枯イセノ海れイセノ海くイセノ海隣イセノ海のイセノ海也イセノ海 全イセノ海鶴イセノ海

幸イセノ海保イセノ海りイセノ海のイセノ海也イセノ海 浮イセノ海翠イセノ海
 出イセノ海屋イセノ海のイセノ海也イセノ海 弓イセノ海丁イセノ海
 急イセノ海倉イセノ海れイセノ海のイセノ海也イセノ海 曉イセノ海井イセノ海
 納イセノ海豆イセノ海乃イセノ海活イセノ海のイセノ海也イセノ海 荻イセノ海川イセノ海
 寸イセノ海白イセノ海れイセノ海席イセノ海のイセノ海也イセノ海 有イセノ海之イセノ海
 小イセノ海舞イセノ海のイセノ海也イセノ海 固イセノ海有イセノ海
 大イセノ海後イセノ海片イセノ海のイセノ海也イセノ海 三イセノ海和イセノ海
 何イセノ海のイセノ海也イセノ海 調イセノ海千イセノ海
 あイセノ海らイセノ海日イセノ海のイセノ海也イセノ海 杉イセノ海月イセノ海

雪の口結きし花の歌や鶴鶴 三父

降あまのつらきとてわらふ娘の歌 亀洞

白中紅辛味上づるや雪の雲 ^{十二ヤ} 狐白

月明と波あつるや玉子酒 古麓

おきり余情分てやあまの紫 ^{染田} 登江

雪をぬり換ゆるむや ^{ナコヤ} 扇雀 ^セ

ふらふらあまの世や風流 ^女 風式

乾鯉やけし居たりハ九年 風鳥 ^{カミケ}

小細工のふらふら ^セ 笹乃雪 風野

た刃おれ眼くく ^セ 氷仙舟 瓦山

長久のふらふら ^セ 時雨 ^レ 拾翠

あまの ^レ 何故 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 青 羽重

湯阿 ^レ 里 ^レ ぬ ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 流 涓流

戒存と楷 ^レ 出 ^レ り ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 鼓 莞尔

松一本 ^レ 氷 ^レ と ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 下

柳汁乃海 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 下 ^{佐公} 家雞

雪の ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 下 ^{雲窓}

初雪 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 乃 ^レ 氷 ^レ 下 ^{素人}

柔のむらぬくしるる北氣也何ぞ 楚山

肉これさるをいとけりやみよの梅 素行

雪車てふるりや下界の人北声 右柳

冬めさるるに寒き一懐の心 慮推

影もやもて梅乃さるる 蛙声ニ瓶六

くけりやあやも乃と立火の施 瓢工

と茶を飲むもむし性根瓜入也 可考ナヤ

傷とれと親の意也 櫻川

肩継りも昔乃知るや衣 林子

るるやツ子細くはれぬ 汪冲

正はりや特と何事やと 和泉

と伏の石馬はあも指火の如 椿又

声もよのほくともや幸忘 千之

何神れ蹴きつれあうと何由 吞水

と長くあててふと何とあつ物 凍左

甲の上よとに配るや小春も夢 梅谷

物集社にけりやと長配り 摘葉

お終乃小田の陣やと 白雲

柔のくわや如糸浪居北約殊り 露竹
 不別乃水糸乃方々々々々々の言 滴志
 新法師北條とてん葉ふ小云れ ナユヤ 梅ノ
 寒乃梅めほくや暮く一ささる 信之也田 柳邑
 至るる柳出ぐ一なりとや鶴鶴 一秀
 さくのるれ味と荒さどりの虫 卷耳
 確とゆじ浮や古程乃居葉捲キ 流枕
 信里とねあ一あさとや水仙花 吐龍
 くの仙のむや二八北唐似程 木危

わくわくれ急然と上くく言捲張 万山 三月廿六日
 何ぐく香子瓶のあま千夜うふ 田所と云 浮ト
 中らるれ一寸のつやとくの時句 露瓢
 荒行や舞珠さくくく一さくれ はゆ 未了
 井乃あま出らんと海とや岸一画 シノノ 湖南
 相とる年一猿の尾深ぐんあよる は 関柳
 浪岸め一筆さくくくさささの那 奥の山 南石
 水伝や浦乃管居れ船とあき ナユヤ 閣頭
 空をたは唇の末らくくを出くわ その下 六枝

影法師の暗川梅とるの月 池天

冬乃梅とるくもそや苦みん 十ヨヤ 直水

雪乃口や井と魚乃氣色り 宵月

如年一の神と荒ゆく風うれ 竹枝

白も足も痛きうくど生海嵐成 風姿

寒熱結紅生公海子時由うふ 東芳

横やうりうくうくやゆか鳥 三林

柔の毛も我家系あゆりから 滴露

冬梅や人のまらけう梅水 一志

達磨と忘や破ゆえの陰と九子母 十ヨヤ 捨石

風と波浪とくもそやゆく梅 扇招

飄草一もあ海かたあや池扣 連木

氷火燭や絹乃帯一て馴るお 邊柳

己梅とらうく次梅や止乃構 龜秋

思いあくとぬ家子年と越ぬ泡 鳥道

梅とらや葉とるあへる梅 階向

一もあえくやうる氣乃とま 梅風

眩強く風一とるやまの梅 且栖

愚人会依所之埋以平之火之稱之れ 林月

寒多あやや仲志之免本此法拍子 本町のたきん井 壺珀

是地とこといりけくはあやの心む 鷗波

口ゆあまもやがぐらく雲乃株 斗曲

最上子

山寺之師乞とあまら玉ぎん

北國曲集二終

終集

